



菜の花

宮澤会計 News

〒141-0031
東京都品川区西五反田
8-3-13 第2白川ビル5F
TEL 03 (3494) 8121
FAX 03 (3494) 8122
<http://miyazawa.kaikai-shi.com>
e-mail:info@miyazawa.kaikai-shi.com

3月の税務と労務

3月

(弥生) March

20日・春分の日

- 国 税 / 平成20年分所得税の確定申告
2月16日～3月16日
- 国 税 / 個人の青色申告の承認申請 3月16日
- 国 税 / 贈与税の申告 2月1日～3月16日
- 国 税 / 2月分源泉所得税の納付 3月10日
- 国 税 / 個人事業者の20年分消費税の確定申告
3月31日
- 国 税 / 1月決算法人の確定申告
(法人税・消費税等) 3月31日
- 国 税 / 7月決算法人の中間申告 3月31日
- 国 税 / 4月、7月、10月決算法人の消費税の
中間申告(年3回の場合) 3月31日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31

地方税 / 個人の都道府県民税、市町村民税、事業税
(事業所税)の申告 3月16日



全国524署で最も新しい税務署は？ 現在、日本に税務署は524署あります。最も新しい税務署は平成7年にできた札幌東署と、江戸川署の分割による江戸川北、江戸川南署で、平成に入って以降この年までは毎年税務署が新設されていましたが、これ以降新設署はありません。なお、昨年7月に沖縄の平良署が宮古島署に名称変更しています。

ゲーム理論の戦略的思考法

ビジネスのための最強の思考法

『ゲーム理論』とは、二人以上のプレーヤーが戦う場合の意思決定を研究したもので、ジョン・フォン・ノイマンという天才数学者によって一九二八年に提唱された理論です。「人間関係」「営業」「交渉」「戦略」さらには「戦争」にまで応用できるため、ビジネスのための最強の思考法になりうるものです。

ゲーム理論的な考え方に基づく戦略思考という視点から実際の企業戦略、男女関係、スポー

ツ競技、金融投資など、さまざまな分野の事例を捉えなおすことができますので、紹介をします。

**じゃんけんて
勝つ確率**

たとえば、じゃんけんの勝負は完全に偶然に支配されているというのが一般的な常識ですが、そうとは限らないのではと考えた数学者がいます。桜美林大学の芳沢光雄教授は、学生七二五人に一万一、五六七回のじゃんけんをやってもらい、「グー」「チョキ」「パー」が出された回数进行分析しました。

「グー」「チョキ」「パー」がランダムに出される割合はそれぞれ三分の一ずつになるはずですが、結果は、明らかにグーが出やすくパーが出にくいというものでした。これによると、じゃんけんでは「パーを出せば勝てる確率が高い」ということになりません。

実際、カナダにある「世界じやんけん協会」では、素人のじゃんけんの極意はひたすらパーを出すということを推奨してい

るそうです。

芳沢教授は同じ実験でも一つ面白いことを発見しています。それは「あいこになった場合、同じ手が出された確率は四分の一以下しかなかった」ということです。これを前提とすると、もしパーであいこになった場合、次に相手が出すのはグーかチョキの確率が高いので、自分はグーを出しておけば、「勝ち」か、悪くても「もう一度あいこ」になるので、負けない可能性が高いというわけです。ここまでは、いわゆる「確率的思考法」です。しかし、もし対戦相手もこの極意を知っていたらどうなるでしょう？

二人とも、最初は「パー」、次は二人とも「パー」に負ける「グー」で2回戦もあいこになったら、「相手は極意に従っているな」とみるべきでしょう。ここまできたら、あなたは迷わず次にグーを出して勝ちを狙うべきでしょう。

相手の動きに応じて戦い方を変える

以上の思考法が、「確率的思考

法」のさらに先を行く「戦略的思考法」です。単なる確率にかけるのではなく、相手の初期行動（最初の2回戦）から推測する。それによって、自らの戦略を組み立てるといったものです。このように相手の動きに応じて自分の戦い方を変えていくのが「戦略的思考法」で、これに基づいて最適な戦い方を考えるための理論が『ゲーム理論』なのです。

話は変わって、ロベタな理系オトコと、口が達者で人づき合いのよい文系オトコでは、どちらが女性にモテるのかを『ゲーム理論』で考察した作家の竹内久美子さんが興味深い論考を展開していますので紹介します。

男女の恋愛のプロセスの基本は、オトコによる「口説き」だとすると、甘い言葉や、やさしい囁きで女性を口説くのが上手いオトコであればあるほど、結婚して子孫を残す確率が高いことになりません。

遺伝学という適者生存、自然淘汰の法則が正しいとしたら、劣勢の「口説きベタ」な理系オトコの遺伝子は、とっくの昔に

淘汰され、世界中のオトコはみんなもつと口説きに長けた、文系オトコばかりになっていたはずですが現実は違います。

この戦いを『ゲーム理論』に当てはめて考えると、文系オトコは徹底的に「口で勝負」の戦略をとり、理系オトコは口では絶対に勝てないので、「頭で勝負」ということになります。しかし一般的に女性は自分を気持ちよく、いい気分にしてくれる相手を好むとすると口で勝負が決まる世界では、得意な頭で対抗しても結局敗退ということになるはず。

では、なんで理系オトコの遺伝子は残ってきたのか？竹内さんは、「狩りや戦争があったからだろう」と論考しています。

はるか昔の狩猟時代、槍や弓を使って狩りをするためには、少なくとも部族の中に、弓のよいうな武器を開発、製造したりメンテナンスする人材が何人か必要となります。

また人口が増え農耕時代に入ると、農耕の生産性を高めるために、天候や土壌に適した方法を研究・実践する才能のある人

物がいないと部族の繁栄はおぼつかなかったでしょうと竹内さんはいうのです。

さらに戦争を繰り返すようになると、新しい高性能の武器を開発し、製造するのは理系オトコの独壇場です。

つまり、平和で安定的な世の中では、「口で勝負」することが子孫を残すのに断然有利ですが、戦争や技術革新という要素が入って来ると、「頭で勝負」という戦略の価値が俄然高まってくるのです。

ルールを変える

戦略思考の大事なポイントは、ゲームの構造が自分にとって圧倒的に不利な状況になっていたら、なんとかして「そのゲームのルールを変えることを考えよ！」ということ。理系オトコであれば、技術革新や戦争が価値を持つ世の中に持つていくということ。

「ルールは都合よく変えろ」。実際、世の中そうしたケースは多々みられるのです。一九九八年の長野オリンピックで、日本

のジャンプチームは華々しくメダルを独占しましたが二〇〇二年のソルトレークシティ以降、日本のジャンプ陣は振るわなくなっていました。その最大の要因は、ジャンプ競技のルールが変えられたからです。

長野オリンピックの直後に、従来は「選手の身長＋八〇センチ以下」とされてきたスキー板の長さの制限ルールが、なぜか「身長× π ・四六以下」というルールに変えられてしまい、相対的に背が低い日本人選手は圧倒的に不利になってしまいました。

ゲームの構造を戦略的に変えることで、いままでも有利だった相手を圧倒的に不利にするという典型的な例です。それを意図的に仕組むのが、「戦略的思考」なのです。

自分に有利に変える

戦略的に生きるといことは、問題の本質は何か、どこに問題があるかを自分で考えて、それに対して適切と思われる対応策を、意識してとっていく生き方です。日本では幼少の頃から学

校教育の現場で、まったく戦略的な生き方について訓練されません。ひたすらマニュアルや正解を覚えて実行することが重視されています。

「ルールは決まったものとして何が何でも従うべき」というのは、「試験問題をつくるのは先生で、正解を決めるのも先生」という教育を受けてきた日本人にありがちな思い込みです。歴史の問題で「鎌倉幕府誕生は西暦何年？」という問題には、確かに正解が一つだけあります。しかし、そんなことを覚えていても人生にはほとんど役に立ちません。

「正解は一つではなく、問題もさまざまな立て方があるのが当たり前」という教育を受けてきた欧米人の発想では「ルールは実情に合わせて変えてもよいもの」、さらに場合によっては「自分に不利なルールは、できるだけ有利なルールに変更するよう働きかけるべきもの」だと考えています。これこそ戦略的な生き方ということができるでしょう。

リラクゼーションビジネス

通勤電車のラッシュは戦場以上のストレスを感じるそうです。先ごろイギリスで発表された調査結果では、ラッシュアワー時の通勤電車では、心拍数などが臨戦態勢の戦闘機パイロット以上の負担がかかるとの結果が出たそうです。さらに過酷な日本の通勤ラッシュは、きっと戦場以上の「地獄」に違いありません。

その地獄から救われようと、日本ではいまさまざまなリラクゼーションビジネスが生まれています。たとえば髪の毛を含めた頭皮のリラクゼーション効果がある「ヘッドスパ」や、ツボが集中しているといわれる耳を掃除してマッサージをする「イヤーステ」、デトックス効果が高い足の湯治「足湯」など、体の部位に細分化しているのが最近の傾向のようです。

そのなかで最近話題になっているのが、目を専門とする「アイソロジスト」。これ

は目の美容院にリフレクソロジーを組み合わせた造語で、パソコンの使いすぎによる充血や疲れ目を改善し、目の下のくまなどを取る施術を行う専門家を言います。この療法を行っている東京のある施設では、施術のベースは中国式で、まず専用の器具で手のツボを刺激し、その後、目の周囲のツボを刺激したり、顔全体をマッサージするなどして、治癒力を高めていきます。眼精疲労や充血に加え視力そのものも回復、眼の疲れからくる肩こりなども解消されると言います。さらに刺激によって脳も活性化され、また眼の周囲の丁寧なマッサージなどで顔のたるみやしわも減り、若返り効果もあるとのこと。

国はタイからのスパ関連の人材受け入れの経済連携協定締結にむけて、スパ・サービスに絡む市場を約5600億円と見積もっています。ストレスの増大とこうした国の後押しもあって、リラクゼーションビジネスに関わる市場は今後伸びることが予想されます。

冷え性

手足が冷えて眠れない、指先がジンジンと痛む。冷え性人口は圧倒的に女性が多く、その原因は女性ホルモンが影響しているようです。少し前までは更年期障害のひとつとして語られることが多かったのですが、最近では若い女性にも増えている現代病といわれています。

すが、夏の間のエアコンの影響も大だとか。冷たい飲み物の摂りすぎなど、いわゆる夏の疲れが冷え性を呼び起こしているのです。体が冷えると血めぐりが悪くなる。エネルギーが運ばれない。毛細血管までエネルギーが来ない、という図式が出来上がります。肌荒れや生理痛、頭痛などの弊害を起こすこともあるといわれ、ひとつの病気の症状としてとらえられています。

好調！日本のマンガ・ビジネス

絵がスタイリッシュでストーリー性があって面白いのが日本のマンガ。

日本発のマンガは、すでに立派なビジネスとして世界を駆け巡っています。特にアジアでしっかり定着し、その地位を確立しています。

台湾や香港など、元々マンガが人気の国では、現地出版社の担当者は常に日本の出版社のホームページから日本の“マンガ動向”を検索し、気になる作品を見つければ東京に向いて現物を購入することも珍しくないとのこと。

また、世界42カ国に日本のマンガの翻訳権をセールスしている某大手出版社は、その売り上げの約半分をアジアの市場で占めています。中でも次に狙うのは、中国、インドで、さらにロシアまでも視野に入れ、特にインドは、今後、急速な発展が期待できる大きなマーケットとらえています。